

卒業おめでとう！ 第69期生の前途に幸あれ！！

明日は、いよいよ卒業式。私と皆さんとの付き合いは、わずか1年間だけでしたが、たくさんの思い出をもらいました。「ありがとう！」 一人一人と面談をさせてもらった時も、進路決定に向けての面接練習でも、皆さんからは口々に「入学したてのころは、落ち着きのない学年だったけど、学年が上がるにつれて良くなりました。」と、この学年の印象を語ってくれました。本校の先生方も同じ気持ちだったようです。(私は運が良いので…)

その陰には、これまで関わって来られた先生方の努力があったのだと、改めて感謝しています。

まず、学年主任をしなごらの担任という、超ハードな一年間を過ごされた先生。若さと情熱で、学年を動かす大きな原動力となられた先生。優しさと包容力で、生徒の意見を聴く姿勢と笑顔を買かれた先生。教務主任の仕事をごこなしながら、部活動に同好会に行動力を示された先生。緻密な計画を立て、85号に及ぶ、丁寧な「進路通信」を出し続けられた先生。そして、保健室から、学年だけでなく学校全体をお世話下さった先生。他にも3年間たくさんの先生に関わっていただいて、皆さんの今がありますね。

頑張った皆さんだったからこそ、その皆さんに感謝の気持ちを伝えようと「3年生を送る会」に“氣志團”も“狩人”も駆けつけてくれたのだと思います。あなたが影響を受けたのは…？どの先生ですか？

「少年よ 大志を抱け」

[Boys, be ambitious.]

若者は大きな志をもつことによって、大きな夢を達成できる。
という励ましの言葉。

現北海道大学にあたる札幌農学校の初代教頭であったウィリアム・スミス・クラークが学生たちに残したとされる名言の一部



「少年老い易く 学成り難し、一寸の光陰 軽んずべからず」



人は、若いうちは先が長いものだと思っているが、すぐに歳をとってしまうもの。反して、学問は容易に修めがたいものであるから、若いうちから時間を惜しんで勉学に励むべきだということ。
朱熹の詩『偶成』に「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んべからず、未だ覚めず池塘春草の夢階前の梧葉すでに秋声」とあるのに基づく。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の 為さぬなりけり」

どんなことでも強い意志を持ってやれば必ず成就するということで、やる気の大切さを説いたことば。

江戸時代後期、米沢藩主の上杉鷹山が家臣に「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」という歌を教訓として詠み与えたという話は有名。



保護者の皆様へ お子様のご卒業「おめでとうございます」

明日の卒業式には、是非、御参列いただき、69期生全員を励ましていただければと思います。「義務教育は、保護者にあり、子どもには、ただ教育を受ける権利がある」9年間、教育を受けさせる義務を全うされた皆様へ、改めて敬意を表しますとともに、義務教育最後の学校として槻田中学校を選んでいただいたことに、教職員一同感謝いたします。「ありがとうございました」